

お念珠について

仏さまにお参りするときは、お念珠をかけます。

お念珠はどうしてかけるのでしょうか。浄土真宗の蓮如上人は、「お念珠を持たずに、仏を礼拝することは、仏を手づかみにするようなものだ」とおっしゃって、仏さまにお参りするときには、お念珠を手にするようにと、教えてくださいます。

お念珠は、珠の数（珠数）または数の珠（数珠）と書いて、いずれも「じゅず」とも言います。それは、お念珠の珠を、自分の称えたお念仏の回数を数えるために使ったからです。

しんらん様は、アミダ様のことをとても良く勉強して、私たちに詳しく教えてくださいました。アミダ様は、若い人も年をとった人も、男の人も女の人も、お念仏をたくさん称えた人も称えない人も、みんな同じように仏さまにするとおっしゃいます。

ところが、アミダ様のお心をよく知らない人は、たくさん称えた方が仏さまに近付いて、少ししか称えない人は、仏さまにしてもらえないだろうと思っていました。そしてお念仏を称えた数を、お念珠を使って一生懸命数えていたのです。

私たちは、しんらん様のおかげで、アミダ様のお心を知ることが出来ました。

私たちが、お念珠を掛け「なもあみだぶつ」とお念仏することは、どんな人もわけへだてなく、みんな同じように仏さまにするというアミダ様が私に届いたお姿なのです。そしてそれはそのまま、私がアミダ様にお礼をすることなのです。お念珠は、アミダ様に丁寧に礼をするための大切な仏具です。

お念珠は、畳の上や床の上などに直接置いたり、クルクル回して遊ぶことのないよう、大切に使いたいものです。